



TODA Group Global Vision

“喜び”を実現する企業グループ

お客様の満足のために

私たちは、確かな技術力と多彩な人財力で、お客様との最良のパートナーシップをつくります。

誇りある仕事のために

私たちは、社員をはじめ現場に携わる一人ひとりが、強い責任感と情熱をもって仕事に取り組める職場をつくります。

人と地球の未来のために

私たちは、時代の変化と社会の課題に真摯に向き合い、環境に配慮した安心・安全な社会をつくります。

未来に進むために、必要なもの。
時代のうねりに流されないように、進むべき道を切り拓いていけるように
戸田建設グループは、新たにグローバルビジョンを策定しました。
2021年の創業140周年と、その先の未来に進む
私たちの、これからの指針です。

未来の 歩み方

— 戸田建設が描く未来の姿 —



お問い合わせ

お客様センター フリーダイヤル 24時間 365日受付

0120-805-106

<https://www.toda.co.jp/>

無断での転載はお断りいたします。
Copyright ©TODA CORPORATION All Rights Reserved.
戸田建設株式会社
未来の歩き方 — 戸田建設が描く未来の姿 —

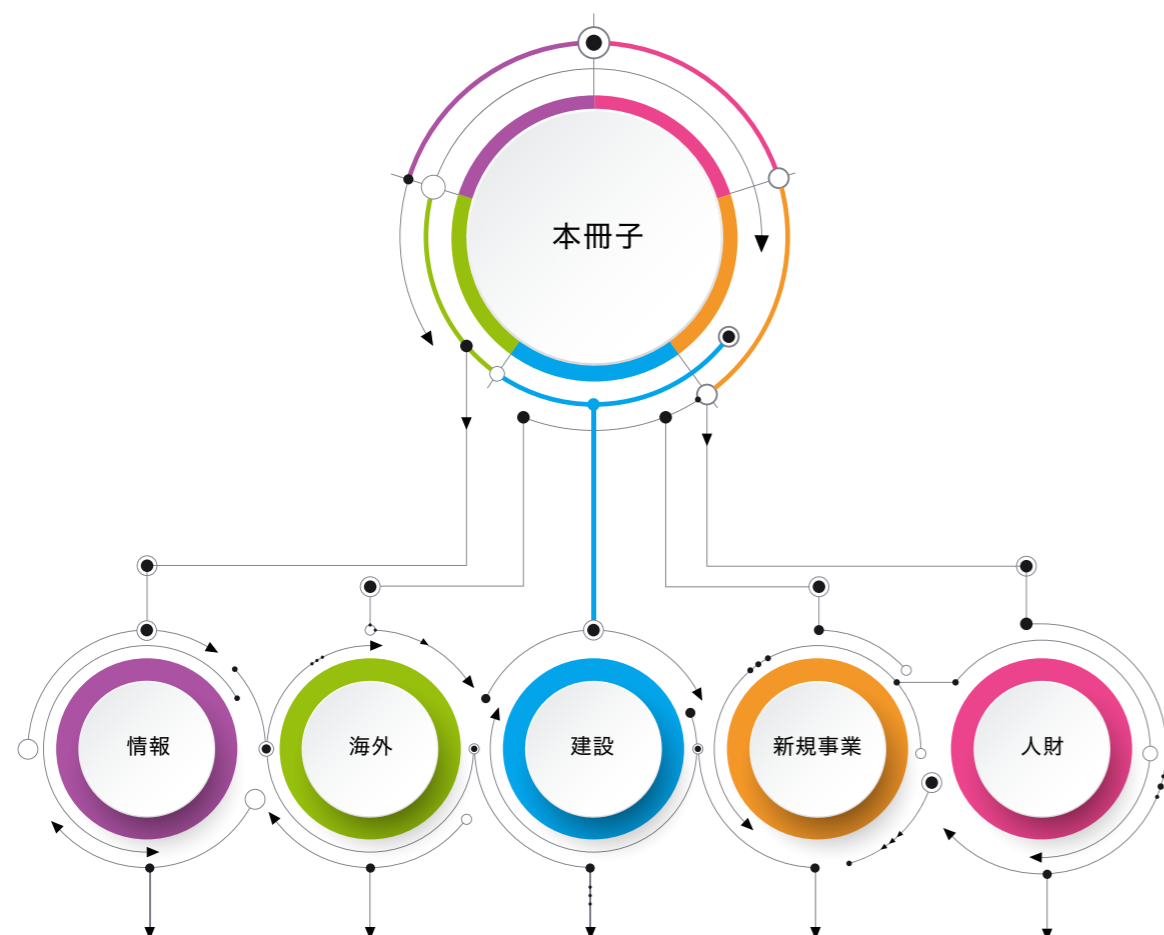
S1902-01A



当社は、2016年から様々な観点で未来を描いてきました。

それぞれの未来は
一本のストーリーの中でつながっています。

本冊子は、そのストーリー。
すなわち「未来における当社事業」の可能性を
表現したものです。



政治・国際関係をはじめとする外部環境は、近年予測不可能な変化が起こっています。また、テクノロジーや社会システムの複雑化も同時に進み、未来は見通しづらくなってきています。このような時代に戸田建設が歩む未来は、多くの可能性を含んだものであるべきで、外部環境の変化に柔軟に対応し、持続的な成長を目指す必要があります。

生物の生存競争における概念で「適者生存」がありますが、企業も同じように、強い企業ではなく最も環境に適応できる企業が生き残り、持続的に成長できるといえます。

『未来の歩き方』は、このような考えに基づき、現状の延長線上にある未来よりも、可能性を広げた未来を提示しています。より多くの選択肢を示すことで、外部環境の変化に応じて適切な取り組みを実施していくことが可能となります。

戸田建設は建設事業を祖業とする企業ですが、当社が掲げるグローバルビジョン「お客様の満足のために」「誇りある仕事のために」「人と地球の未来のために」は、あらゆる事業に適応できる考え方です。

『未来の歩き方』は、未来の建設事業の在り方を真剣に考え理想に向かって取り組んでいくと同時に、新領域への挑戦を続けていくことを基本的な考え方として、戸田建設の可能性を描いたものです。

CONTENTS

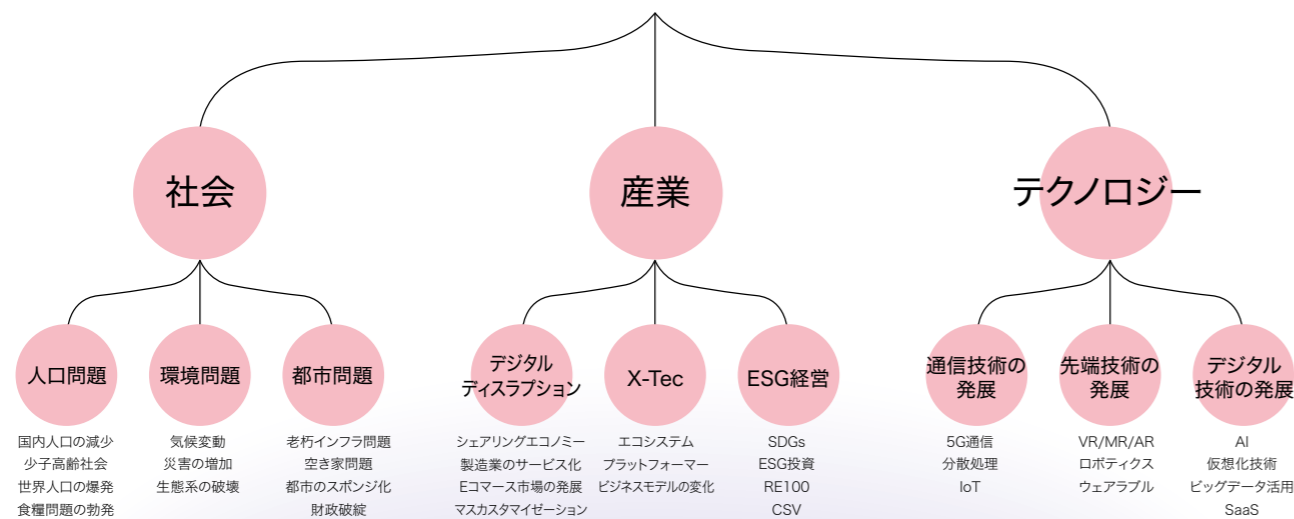
01 外部環境の変化	·····	P3-4
02 未来の歩き方 全体像	·····	P5-6
03 建設を極める	·····	P7-12
04 新領域への挑戦	·····	P13-18
05 社内改革	·····	P19-24
戸田建設が目指す持続的成長のイメージ	·····	P25-26

外部環境の変化

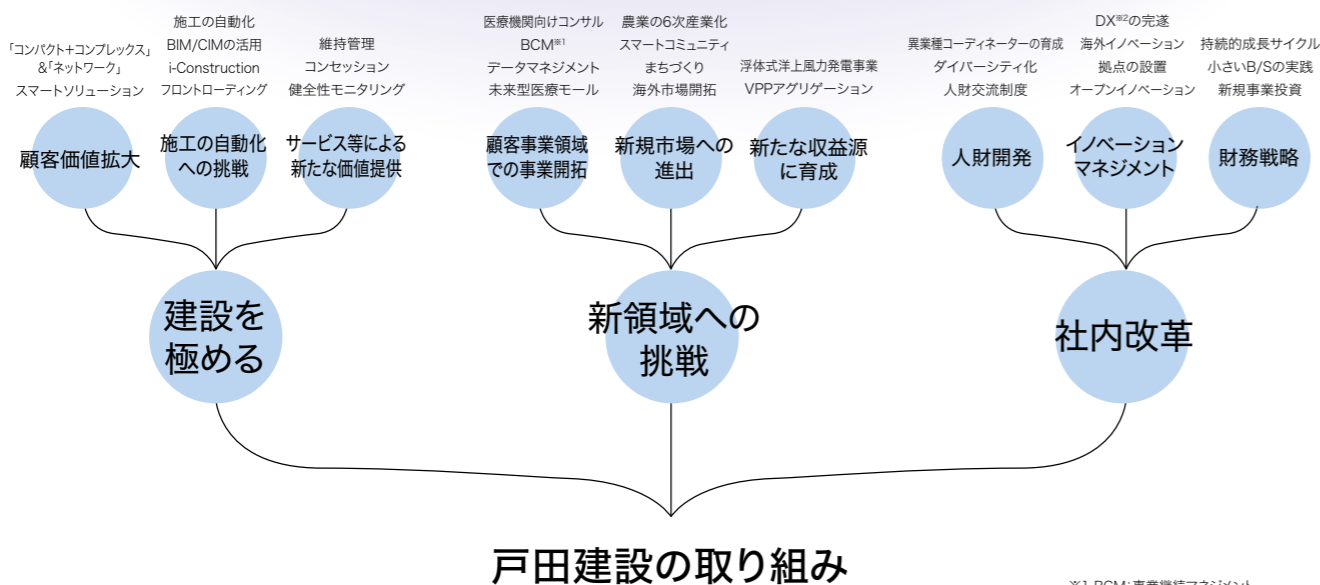
VUCAの時代

政治情勢や国際関係を始めた外部環境は、近年絶えず予測不可能な変化が起こっています。同じように、社会問題の顕在化、イノベーションによる産業構造の高度化、テクノロジーの急速的な発展等をみても、その様相は大きく変化してきています。戸田建設は自社の持続的成長には、これらの外部環境の変化に柔軟に対応し、当社自体が絶えずCHANGEしていくことが必要条件であると考えています。

社外環境の変化 (VUCAの時代)



社外環境に柔軟に対応し、持続的成長を図る



戸田建設の取り組み

※1 BCM:事業継続マネジメント
※2 DX:デジタルトランスフォーメーション

社会の変化

国内は超高齢社会と人口減少時代

世界で最も早く人口減少・少子高齢化が進む日本は、労働者不足や地方の過疎化などが大きな問題として浮上しています。経済成長の側面からは人口オーナス[※]を克服するために、働き方改革や生産の自動化などによる大きな転換が求められています。



※ 人口構成の変化が経済にとってマイナスに作用する状態

環境問題の顕在化

気候変動は、世界各地で自然災害として顕在化し、人類共通の脅威として認識が高まってきています。そのような中でエネルギーシステムが転換期を迎え、世界的に再生可能エネルギー比率が大幅に向上すると考えられます。



産業の変化

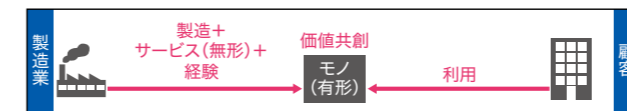
製造業におけるビジネスモデルの変化

所有から利用へと消費の傾向が変化し、あらゆるモノが売り切りモデルからモノやサービスの利用期間に応じて料金を支払う方式であるサブスクリプションモデルに移行しつつあります。製造業などBtoB企業においても、IoTや通信技術を活用したサービス化の動きが加速してきています。

Make and Sellモデル(従来の製造業)



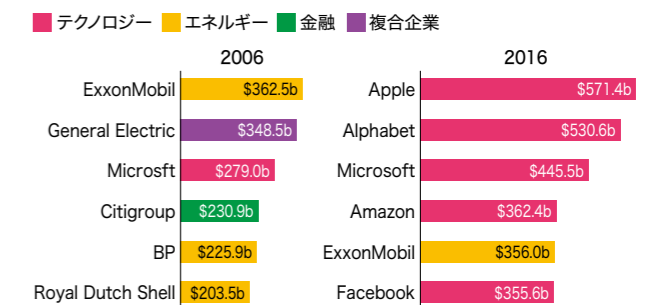
Service Basedモデル(新たな製造業)



The Age of Tech

The Age of Techと言われるように、2006年から2016年にかけて、アメリカの時価総額トップ企業はほぼデジタルネイティブな企業に入れ替わっています。これらの企業は、既存製品やサービスを提供してきたビジネスを淘汰し始めており、デジタルディスラプションと言われています。

アメリカの時価総額トップ企業

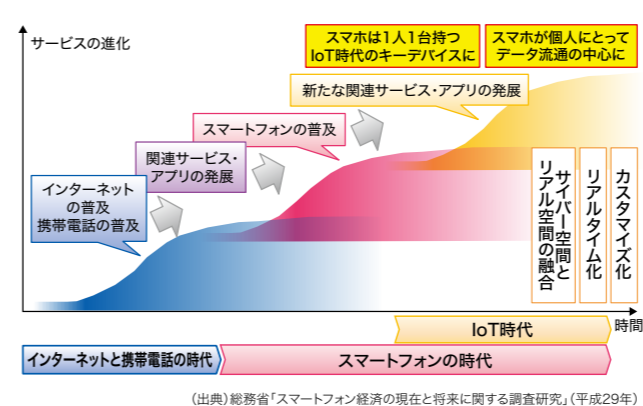


テクノロジーの進化

インターネット・スマホの普及

2000年前後のインターネットの普及、2007年のスマホの登場が、ビジネスの仕組みを大きく変化させています。これによりEコマースの利用など、いつでもどこでもオンデマンドでサービスを楽しむ環境が整っています。

インターネット・スマホの普及によるサービスの進化

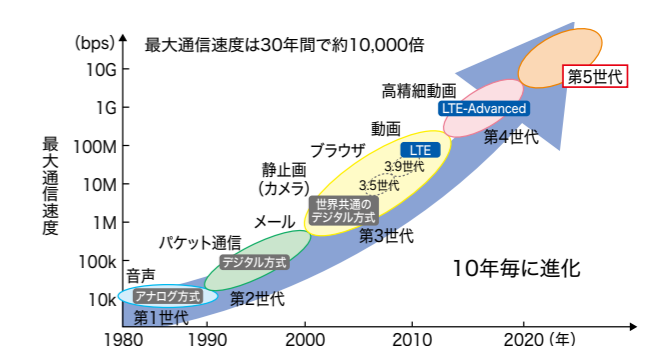


通信技術の発展

あらゆるものがネットに繋がるIoT時代の到来と、それに必須となる通信手段である5G及びMEC[※]の実現により、高速・大容量の通信が可能となります。これにより高精度動画のストリーミング配信が可能となり、遠隔監視、遠隔操作や自動運転等が実現します。

※ MEC (モバイル・エッジ・コンピューティング): ユーザー近くにエッジサーバを配置し分散処理される技術

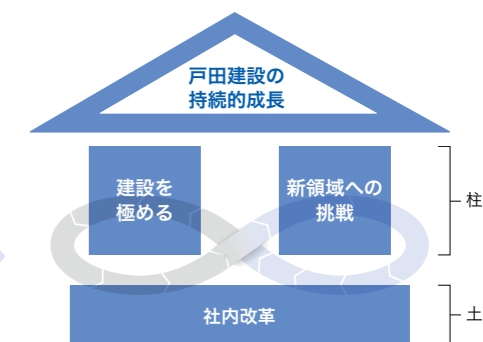
移動通信システムの進化(第1世代～第5世代)



未来の歩き方 全体像

戸田建設が持続的成長を遂げていくためには、社会、産業、テクノロジーを始めとする社外環境の変化に柔軟に対応し、建設を中心に当社が社会に提供する価値を最大化する必要があります。そのために必要な要件を捉えるコンセプトとして、当社の未来の事業をけん引する柱に「建設を極める」「新領域への挑戦」というテーマを置き、そのために必要な土台作りとして「社内改革」を設けました。当社の強みである建設を軸に、新領域事業とのシナジー効果を獲得しながら、事業領域を拡大させていくイメージを描いています。

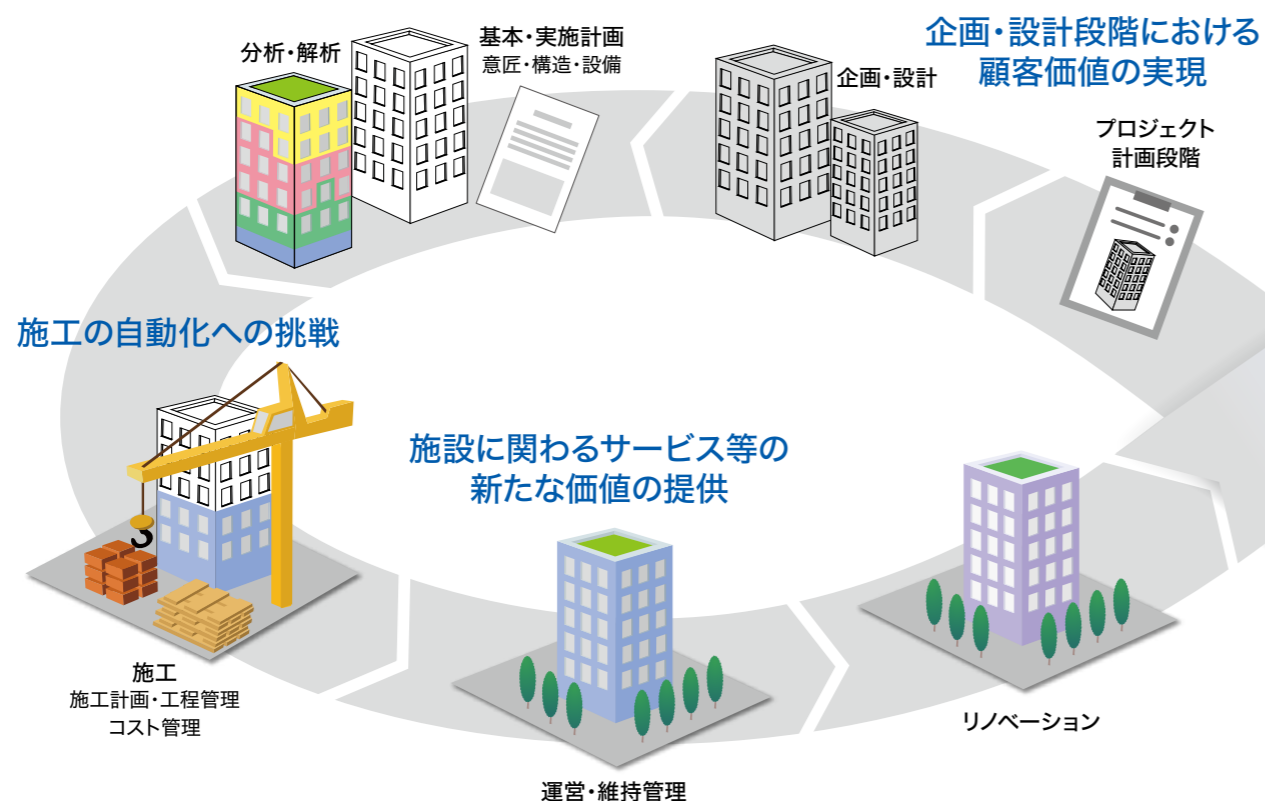
未来の歩き方
コンセプトイメージ



建設を極める ▶ 03

当社の本業である建設事業において従来の建設プロセスに加え、企画や運用、リノベーションなどのバリューチェーンの強化を構想しています。また、私たちの経験、知識を集約するプラットフォームである「戸田の頭脳」*を構築することで、一貫した情報共有を可能にし、営業から設計、施工、メンテナンス運用まで顧客に途切れない価値を提供します。更に新領域で得られたデータを活用し、新たな建設プロジェクトへフィードバックすることで建設と新領域でのシナジー効果を最大限発揮していくことを構想しています。

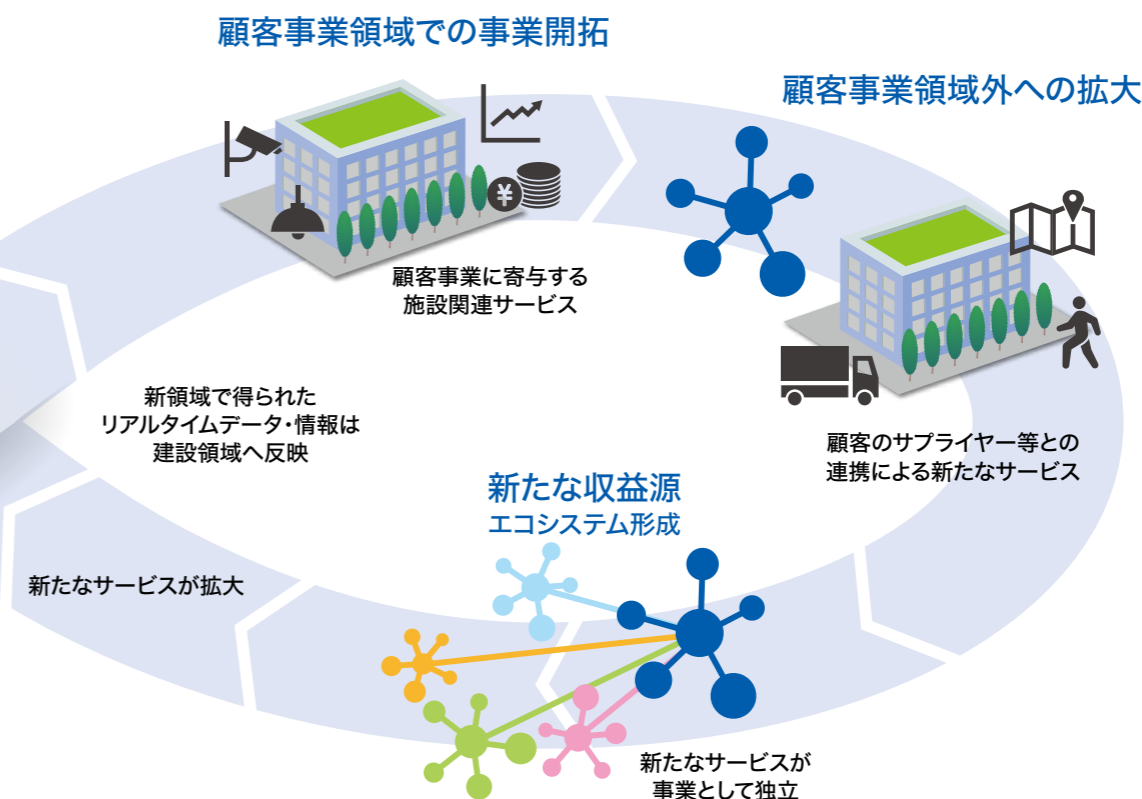
* 当社が取得・保有するデータや経験など、全ての情報が集約された土台環境



新領域への挑戦 ▶ 04

当社が顧客に提供する価値は、従来は建物や構造物等の有形のものでした。これからは社会の変化を捉えた上で、サービスを通じた「顧客エクスペリエンス」*等の無形価値の創造にも積極的に挑戦していきます、事業領域を拡大していきます。

* 顧客が体験する満足感や価値



社内改革 ▶ 05

一連の事業ストーリーを実現するために、既存の仕組みを抜本的に改革します。ヒト・モノ・カネ・情報を次の時代に必要な形に変えていきます。

- ・ **デジタルトランスフォーメーション**: デジタルの変化を軸にしたビジネス変革
- ・ **人財開発**: 既存の価値観から脱却した人財の育成と獲得
- ・ **イノベーションマネジメント**: オープンイノベーションの積極的な実践
- ・ **財務戦略**: 事業活動を推進するエンジンとしてファイナンスを積極活用

建設を極める

03

戸田建設のバリューチェーン強化を図る

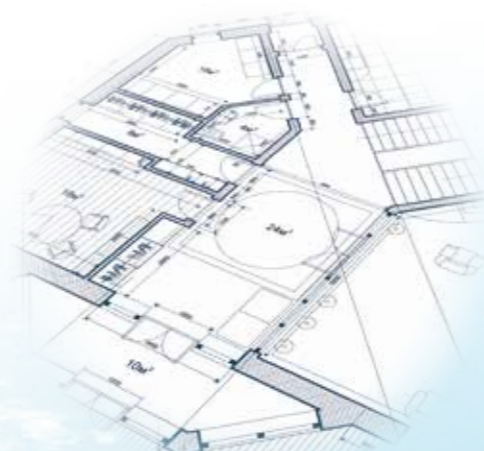
建設に関わるそれぞれの事業の強化を図り、社内の様々な活動を相互に結びつけることで、市場のニーズに対して柔軟に対応する事が可能となり、顧客に途切れない価値を提供します。

そのためには、情報のプラットフォームである「戸田の頭脳」を核に、「企画・設計段階における顧客価値の実現」、「施工の自動化への挑戦」、「施設に関わるサービス等の新たな価値の提供」の3つの柱を相互連携させ、バリューチェーンの強化を目指します。

これらを達成していくことで、盤石な事業体制にしていきます。



企画



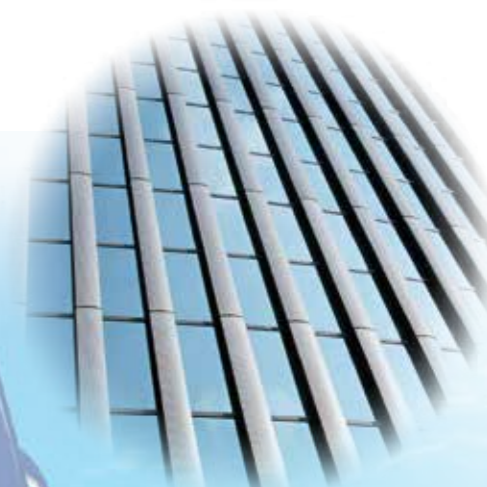
設計



施工



維持・管理



不動産

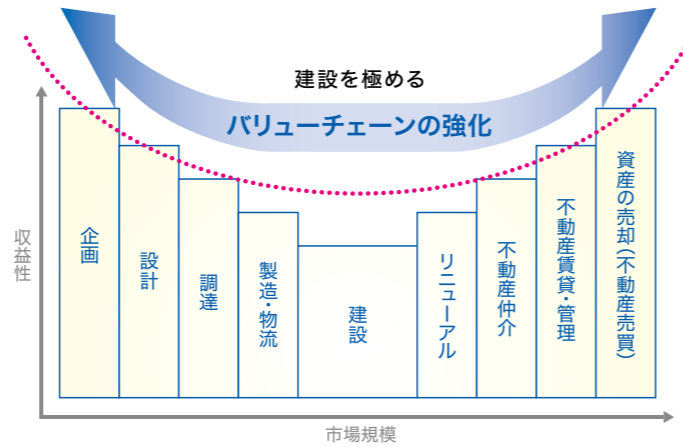
建設を極める — サマリー

建設事業においては、バリューチェーンを強化することで顧客に途切れない価値を提供します。

企画段階では、継続的に建築物やまちを維持、更新、成長させる「継続進化」*を志し、新陳代謝を促します。施工段階では、情報のプラットフォームである「戸田の頭脳」を活用し、知識・経験のリアルタイム共有やBIM/CIM、自動化技術を用いて、最適化された施工を目指します。

運用段階では、デジタルツインによって建設物のリアルタイムデータを取得し、維持修繕やエネルギー管理等の顧客サービスに展開することで、FM(ファシリティ・マネジメント)の質と領域を拡大していきます。

* 今あるものに継続的に人の手を加え、更に進化させて価値を持続させること

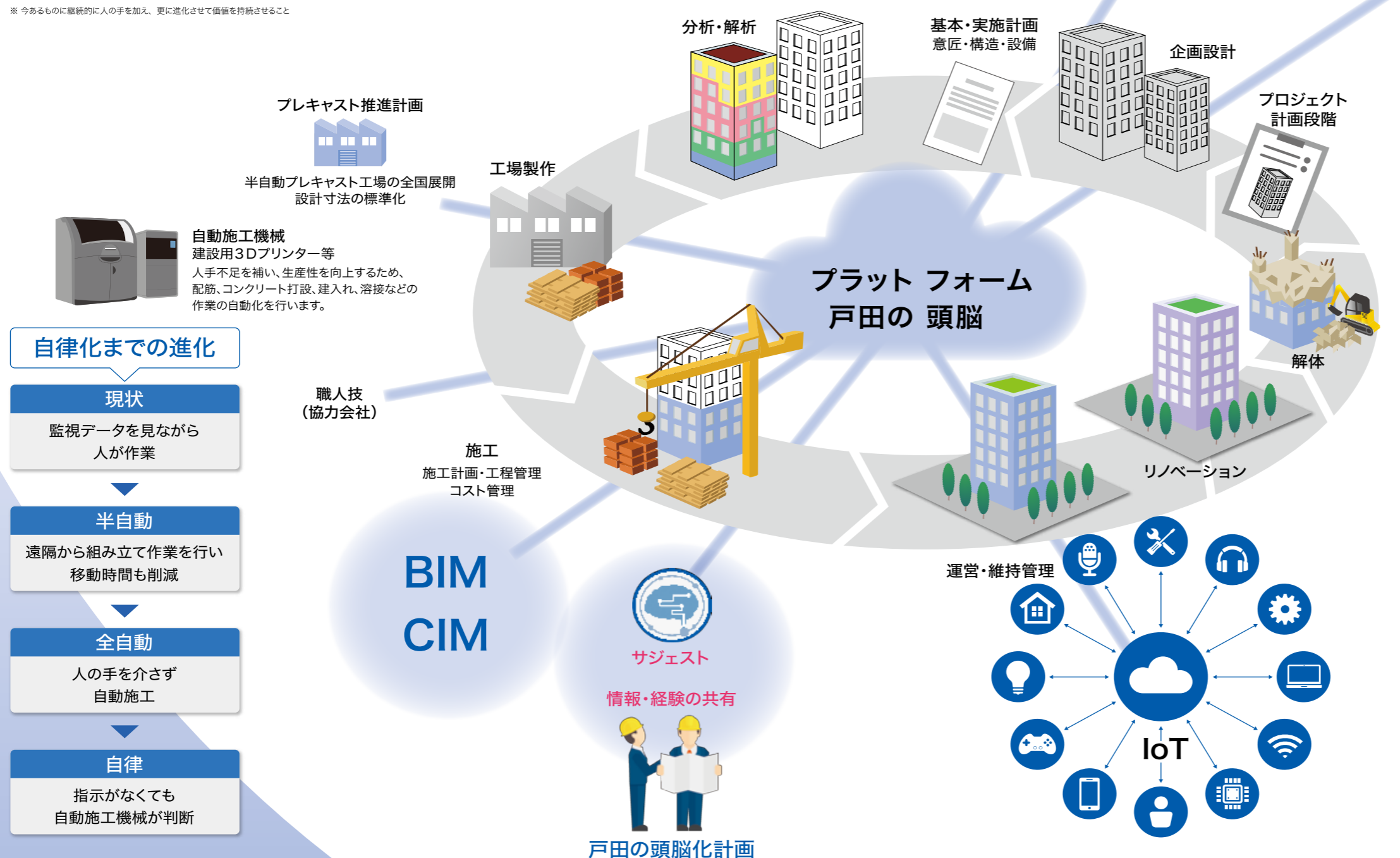


シミュレーション営業



未来の歩き方 — 戸田建設が描く未来の姿 —

未来のニーズをとらえた建物などの企画



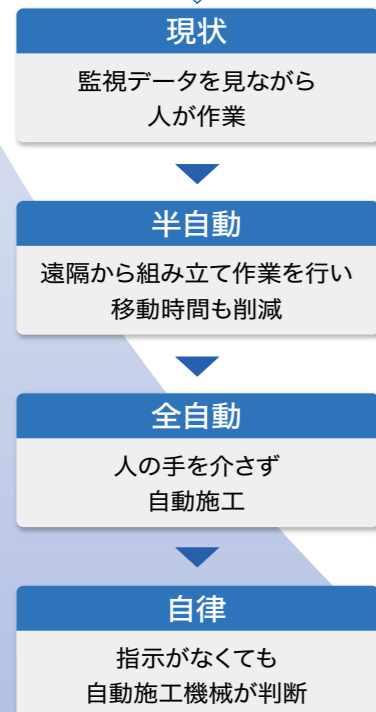
プレキャスト推進計画

半自動プレキャスト工場の全国展開
設計寸法の標準化



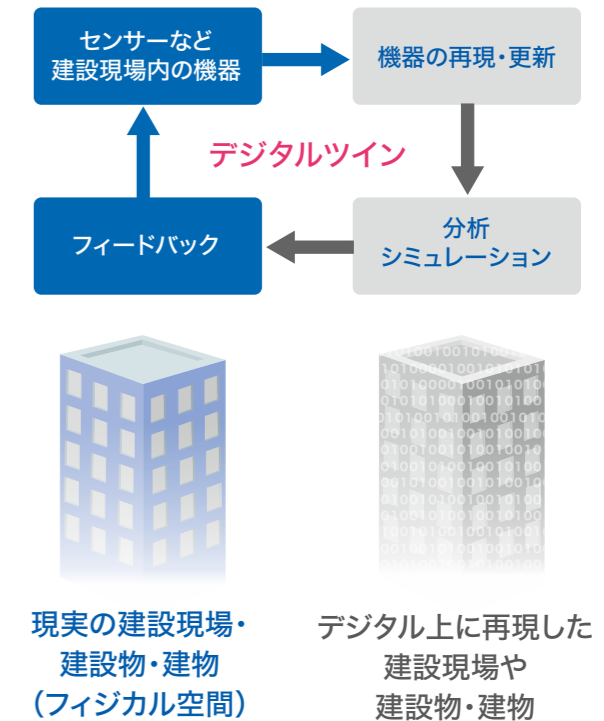
自動施工機械
建設用3Dプリンター等
人手不足を補い、生産性を向上するため、
配筋、コンクリート打設、建入れ、溶接などの
作業の自動化を行います。

自律化までの進化



デジタルツインの適用イメージ

- 実際の施工を行う前に、デジタル上で何度もシミュレーションを繰り返した「最適施工計画」
- 自社のプレキャスト部材製造工場において最適に製造・運用する「オートメーションPCa工場」
- リアルタイムデータを最大限に活用した建設物・建物運用



建設を極める — エッセンス

「少子高齢化」や「地球環境保全」など今後の課題を解決する

これからの社会において様々な課題が提示される一方、テクノロジーの急速な進展は想像もつかない豊かな社会を実現してくれる可能性を秘めています。

新たなテクノロジーに“人の手”を携え、建築やまちを継続的に維持、更新、成長させ、日々刻々と変化し続ける時代の

価値観に対し常に寄り添っていくものづくり…これが、当社の目指す「継続進化」の姿勢です。

当社は「継続進化」の考えのもと社会的課題に対して常に役立つ価値を創造していきます。



「コンパクト+コンプレックス」 & 「ネットワーク」

「コンパクト+コンプレックス」 & 「ネットワーク」は、「少子高齢化」や「地球環境保全」といった社会課題の解決に向けて当社が提案する一つのキーワードとなります。

コンパクトで効率のよいコミュニティをつくる

人口が減少し少子高齢化が進行する状況の中、小さな地域に集まり寄り添って人々が住むことにより様々な課題を解決します。

複合化によって利便性を高める

既存ストックの複合化、再利用、エネルギーの効率的利用、生活の利便性向上といった今後高まっていくニーズに対応し得る様々な都市機能の複合化を進め、コミュニティを活性化します。

ネットワークで地域をつなげ、さらに活性化

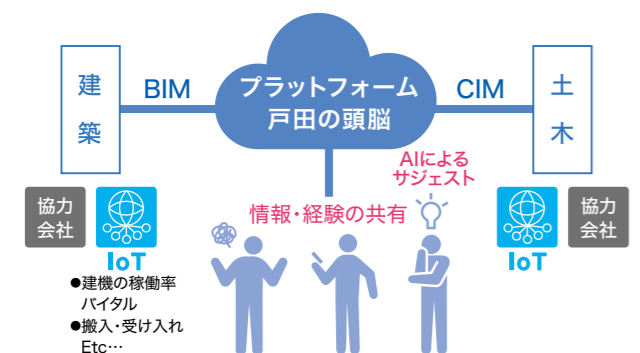
「コンパクト+コンプレックス」化した高機能で利便性の高い「コミュニティ」に対して、相互のネットワーク連携を促し、高密度で多様な交流を促進します。

施工の自動化への挑戦

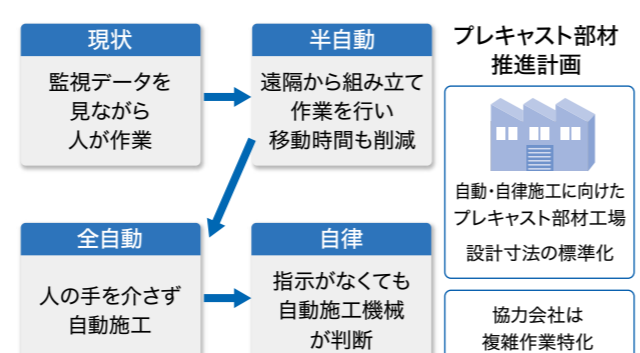
現場から、IoTやエッジデバイスによって「もの」や「知識」、協力会社も含めた「経験」のデータをリアルタイムで収集し、情報のプラットフォームである「戸田の頭脳」で一元管理します。瞬時に情報共有が行われ、知識・経験の相乗効果により、品質や生産性向上等あらゆる面から価値を創造します。

モビリティ革命(無人物流)の到来を見据えたプレキャスト部材の高度化を行います。「現場で造る」から「遠隔から組み立てる」、「現場で自動組立」へ進化させ、人手不足時代に対応していきます。

戸田の頭脳化計画(生産性の向上・経験の共有)



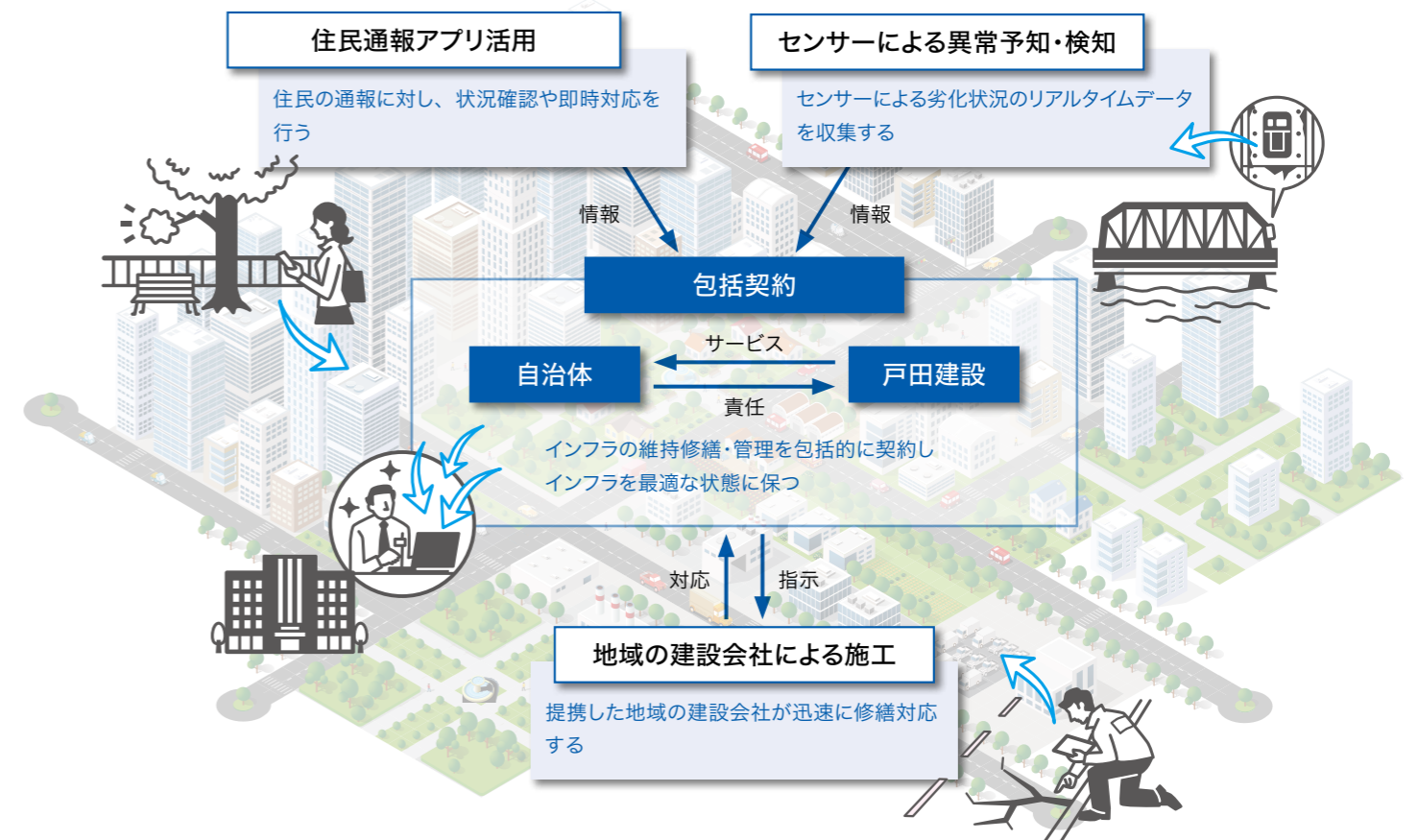
自律化までの道とプレキャスト部材推進計画



施設に関わるサービス等の新たな価値の提供

先端技術やデータを積極活用し、グループ会社、協力会社等のパートナーと連携しながら、顧客の課題を解決します。

例えば、自治体において深刻なインフラ老朽化に関しては、住民と地域の建設会社を巻き込んだ包括的な枠組みを作り、新たなサービスを展開できる可能性があります。



発展途上国へのアプローチ

国内で培ったビジネスは海外でも展開します。インフラや建築物、規制や資材等の条件が異なる発展途上の国々においては、国内で培った技術をさらに発展させ建設領域をさらに拡大できる可能性を秘めています。



04 新領域への挑戦

外部環境の変化へ柔軟に対応するためには、従来の延長線上のビジネスのみでなく、顧客価値の観点からあらゆる事業の可能性について検討する必要があります。戸田建設グループ全体でシナジー効果を生み出せる新規事業領域を見定めていきます。



ICT/IoT



余暇



医療



農林水産



海外



まちづくり

戸田建設グループの
新規事業戦略における
重点検討領域



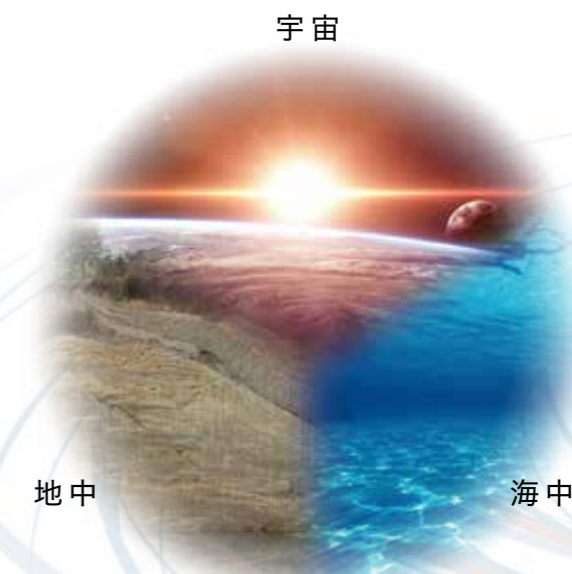
福祉



防災



エネルギー



宇宙

地中

海中

新領域への挑戦 ― サマリー

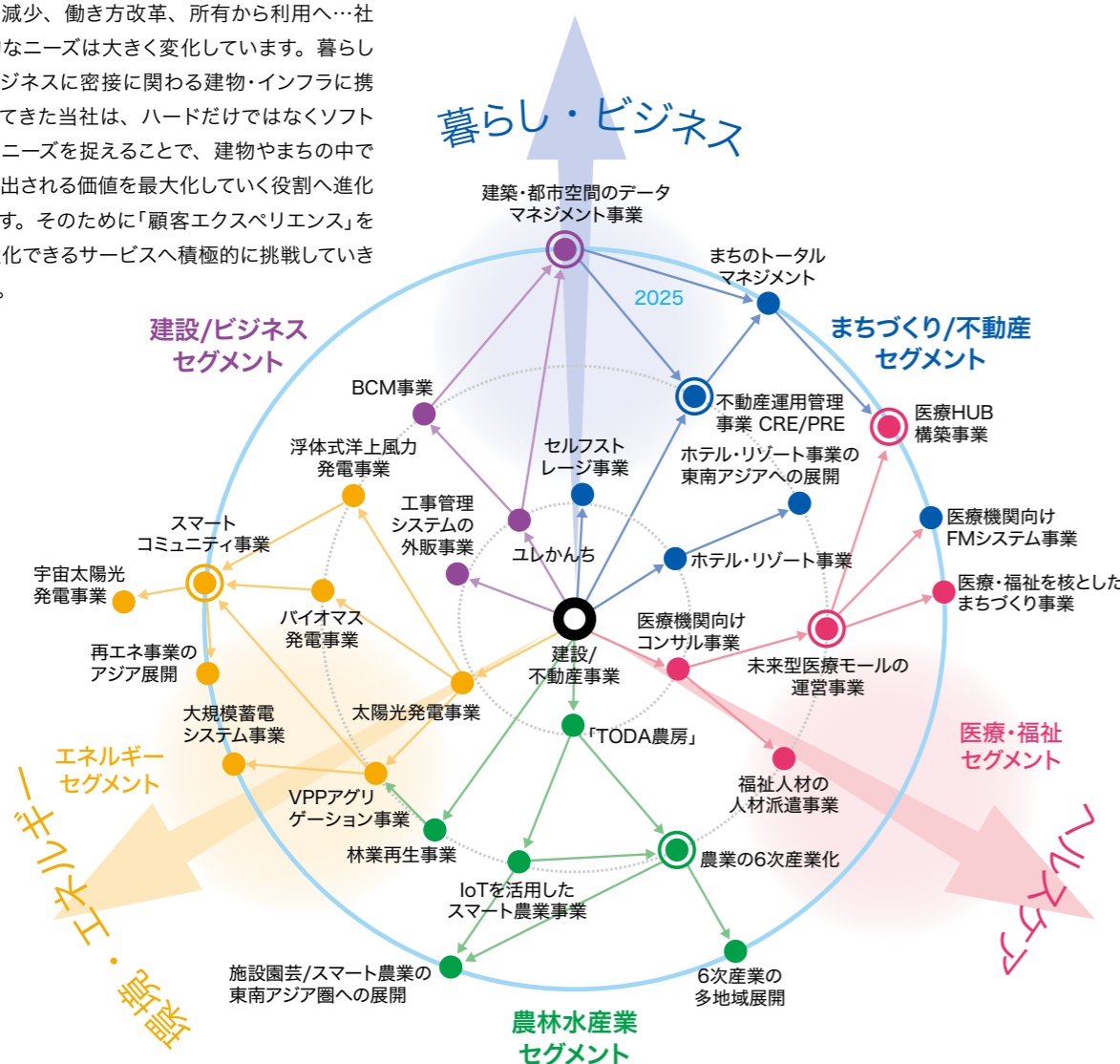
戸田建設の新領域への挑戦は、これまで培ってきたコア事業である建設・不動産事業を中心として、周辺ビジネスを連続的に開拓していくプロセスを描いています。最初は建設事業に近い領域での事業開拓からスタートしますが、連続的に事業展開を進めていくことで、従来と全く異なる領域での事業の確立を目指します。新領域で建設物の企画に活かせる知識・技術・トレンドが収集できれば、シナジー効果はさらに高まると考えられます。

また、新たな事業展開には自社で保有するリソースのみでは達成が困難なケースも多いため、他社との連携やオープンイノベーションを積極的に実践していくことで自社の枠組みにとらわれない可能性を追求していきます。

連続的事业開発のイメージ

暮らし・ビジネス

人口減少、働き方改革、所有から利用へ…社会的なニーズは大きく変化しています。暮らしやビジネスに密接に関わる建物・インフラに携わってきた当社は、ハードだけではなくソフト面のニーズを捉えることで、建物やまちの中で生み出される価値を最大化していく役割へ進化します。そのために「顧客エクスペリエンス」を最大化できるサービスへ積極的に挑戦していきます。



環境・エネルギー

近年、気候変動に代表される環境問題の顕在化により、世界的に環境・エネルギー分野への関心が高まっています。戸田建設は、従来からこの領域へ積極的に取り組んでおり、今後も技術を持ったパートナーと連携しながら、新たなソリューションの提供に挑戦していきます。

ヘルスケア

世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本は、健康・医療や食に関するニーズが多様化してきました。当社は従来から「病院の戸田」として培ってきた信頼と実績があります。建物としての病院の枠から飛び出し、サービス面も含めた「ヘルスケアの戸田」といわれる存在になれるようこの領域の事業へ挑戦していきます。

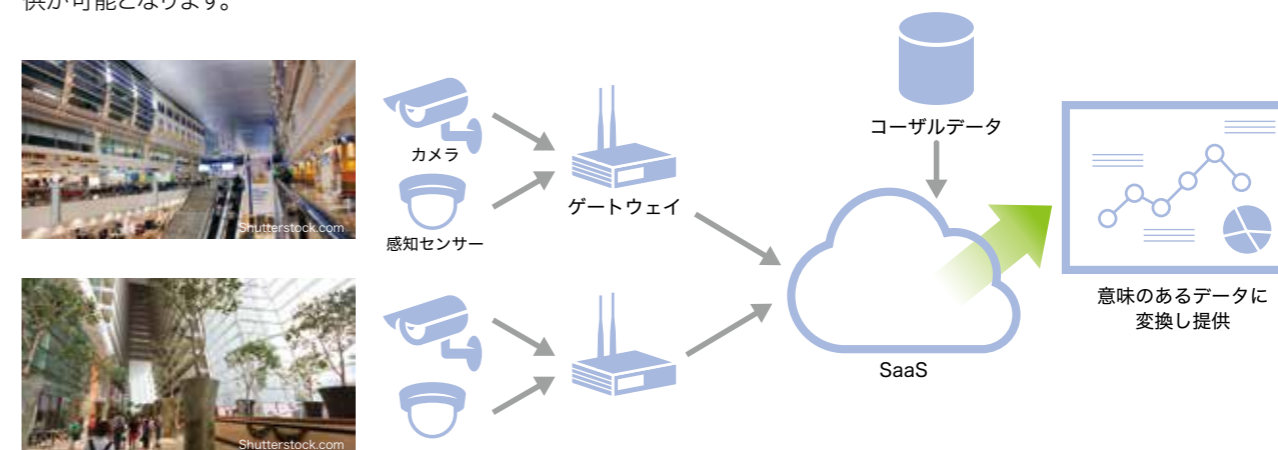
新領域への挑戦 ― ピックアップ

新領域への挑戦には、3つの事業化の段階を設定しました。第1ステップには、当社顧客の事業領域に存在するニーズを解決するためのソリューションを提供していくこととして位置付けます。第2ステップは、第1ステップで獲得したノウハウを市場に投入するフェーズと位置付け、そして第3ステップには当社の新たな収益源にまで高めていくフェーズを設定します。第3ステップの先には、建設事業やその他の事業との連携により相互に価値を高めていくことが期待されます。ここで設定したステップで事業化の達成を図っていきます。



建築・都市空間のデータマネジメント事業

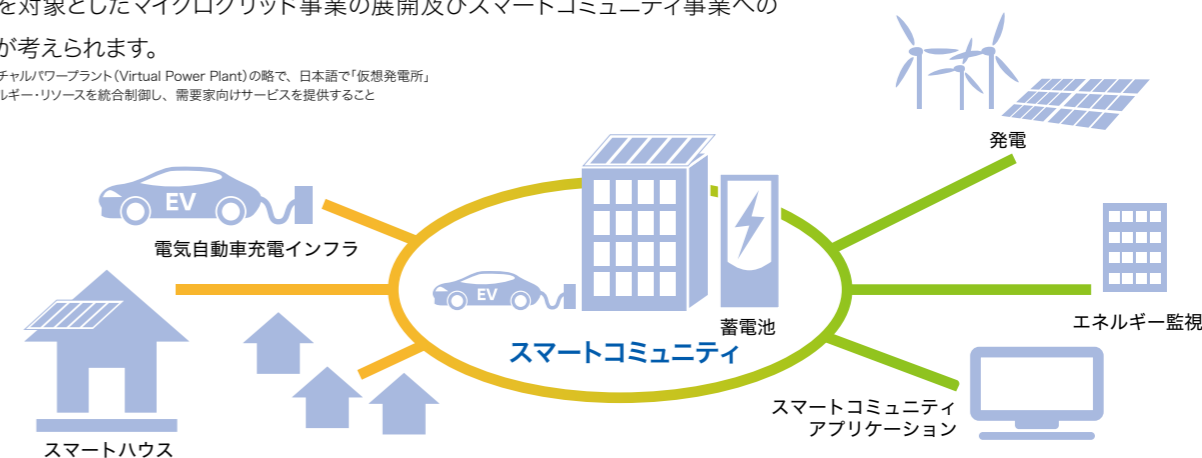
建物や街区でセンシングした「イベントデータ(来訪者数、空間の稼働状況等)」、コーガルデータ(天候、気候等)やその他外部データを活用します。そして、テナント店舗での売上予測を行ったり、エネルギー利用予測を行うなどのサービス提供が可能となります。



スマートコミュニティ事業

VPP事業^{*1}やエネルギー・リソース・アグリゲーション^{**2}事業等への挑戦をきっかけに、エネルギーマネジメント事業全般に関わることが出来ます。その先には主に地方都市を対象としたマイクログリッド事業の展開及びスマートコミュニティ事業への展開が考えられます。

^{*1} バーチャルパワープラント(Virtual Power Plant)の略で、日本語で「仮想発電所」
^{**2} エネルギー・リソースを統合制御し、需要家向けサービスを提供すること

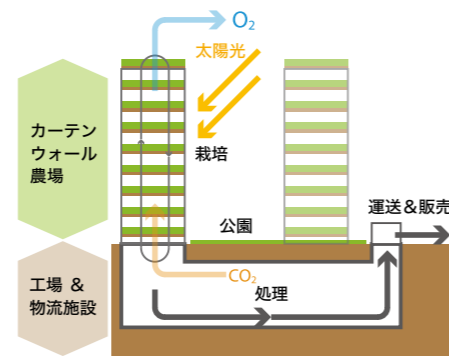


農業の6次産業化

現在戸田建設で進めている施設園芸事業(TODA農房)を連続的に発展させ、さらに農産物の加工から流通販売までを統合した農業の6次産業化に取り組みます。同時にIoTを用いて設備や機器を制御し、栽培工程の管理を省力化・無人化を図っていきます。

また消費地に近い都市部においては遊休不動産を利用したファームファクトリーへのリノベーションを実現することで、日本の低い食料自給率と、儲からない農業の2つの問題に対するソリューションとしての位置付けをもたせた競争力のある農業を目指します。

都市型6次化農業のイメージ例



1次:生産



2次:加工



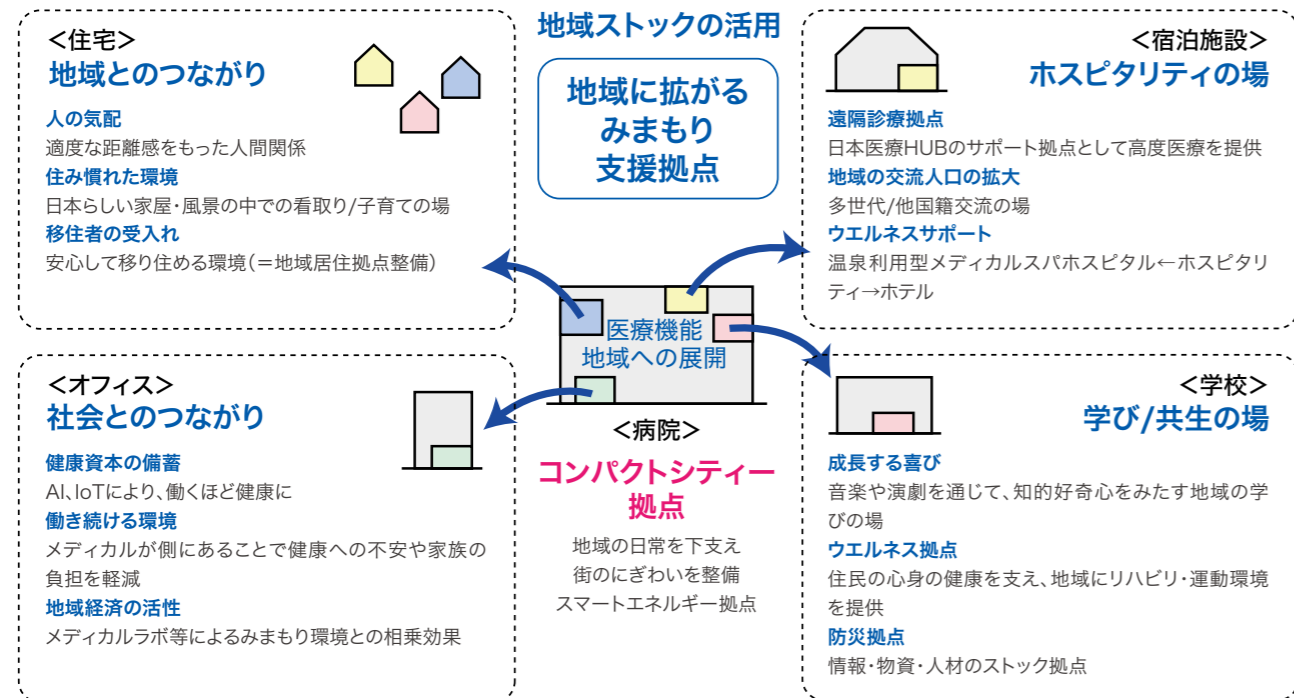
3次:流通

まちづくり事業

少子高齢化が進み、社会保障サービスを維持することに貢献していた地域密着の中小規模病院では医業経営が圧迫されることが予想され、病院の生き残り問題が顕在化しつつあります。持続可能な社会保障制度を構築するためには、先端高度医療のみでなく、地域における『治し・支える医療介護』が求められます。医療福祉施設は、地域包括支援システムの中核

である『みまもり支援拠点』におけるセーフティネットの根幹であり、地域に分散する学校や商業施設などの施設がもつ機能と協働しながら、地域住民の創造的で健康的な生活を支える仕組みを強化する必要があります。その地域ならではの文化、風土を尊重した時間の経過が育む厚みを活かした『みまもり支援拠点』を構築します。

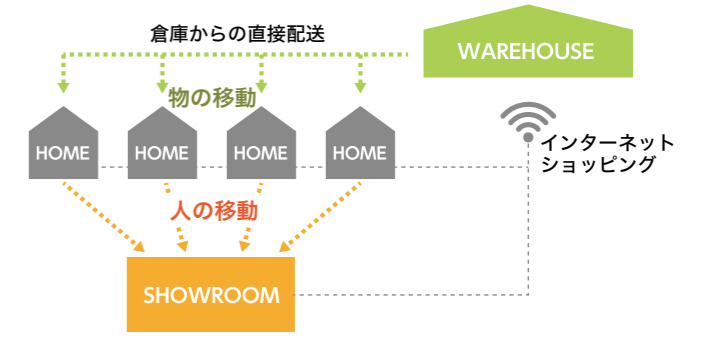
その地域らしい『みまもり』の環境整備



ショールーム化する商業施設

Eコマースの普及により、商業施設は購入から体感の場、ショールーム化することが予想されます。そしてショールームならではのモノを実際に体感するという機能が仮想体験と差別化されていきます。

商業施設は特に社会状況に影響されやすいため、可変性を追求した空間が求められます。小規模でありながらも社会のニーズに合わせた商品の入れ替えに対応できる汎用性の高いユニットシステムを開発し、新たな事業として取り組みます。



ショールームでの商品体験

ショールームとしての商業建築のあり方

- ビジネスモデル
- 可変性の高い建築ユニットの開発
- ユニット化された構造システムの開発



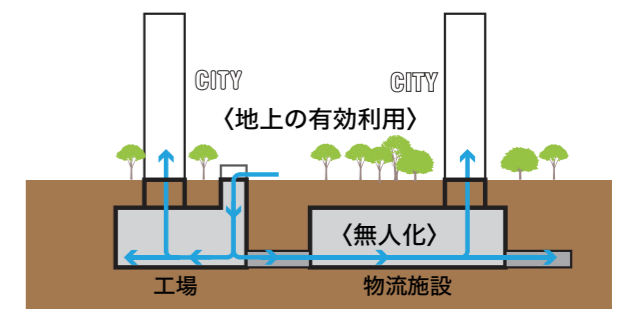
商品の入れ替えによって、ショールームも変化する

無人化地下工場・物流施設

将来の生産・物流の施設は、無人化の方向に進むと考えられます。そこで、有人を前提に地上でないで成立しなかった施設も、環境負荷(経年劣化・熱負荷・地震等)の影響を受けにくい地下へ展開します。

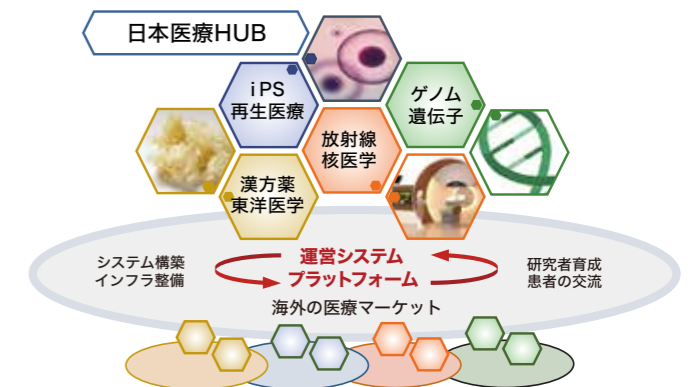
無人のため照明や空調が不要となることから、エネルギー負荷を軽減できると同時に、地上部も活用でき土地の有効活用が可能です。

顧客への提案の他に、自社事業として可能性を検討します。



医療福祉の海外展開と日本の医療HUBの構築

2040年に高齢人口のピークを迎える我が国の医療介護連携の経験は、日本の知的財産であり、海外におけるルールメイキングを先導する可能性があります。この経験を活かし、国民皆保険制度を持続可能なものとするためには、効率的な医療介護提供モデルの構築が必要となります。そこで当社は建設事業で培ったノウハウを活かし、教育・研究機関との協働による高度先端治療特区の構築の支援を推進します。そして国際基準となりうる日本医療HUBと共通運営プラットフォームの構築を支援し、プラットフォームにおける標準施設モデルを確立することで、海外において高品質でコストバランスのとれた医療拠点を整備します。



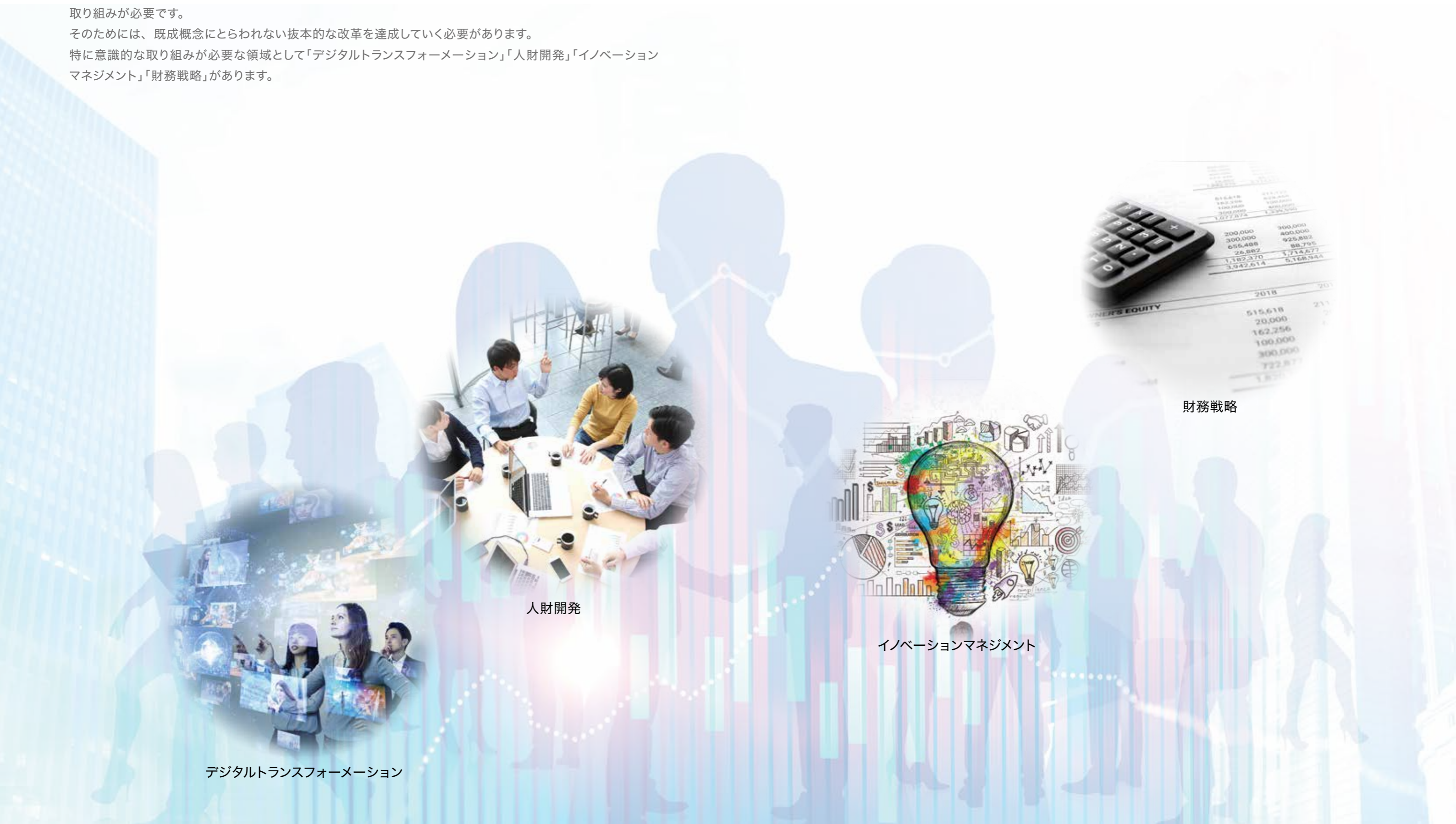
社内改革

05

「建設を極める」「新領域への挑戦」に取り組んでいく上では、社内外のリソースを有効活用できる仕組み・取り組みが必要です。

そのためには、既存概念にとらわれない抜本的な改革を達成していく必要があります。

特に意識的な取り組みが必要な領域として「デジタルトランスフォーメーション」「人財開発」「イノベーションマネジメント」「財務戦略」があります。



財務戦略



イノベーションマネジメント



人財開発

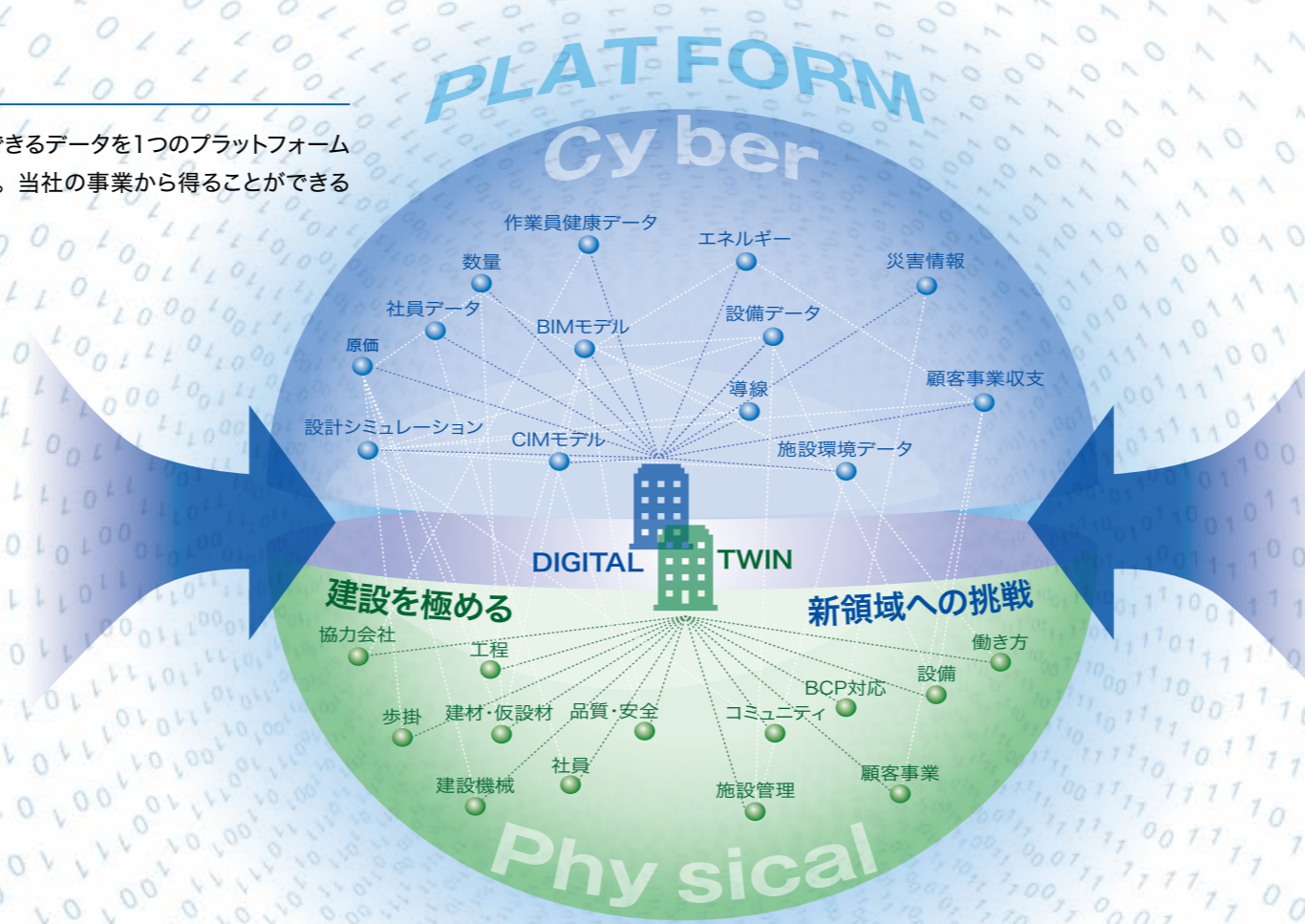
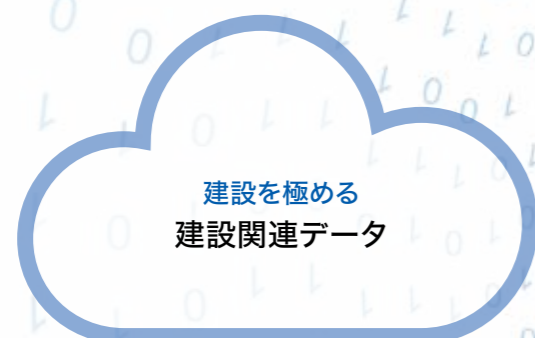


デジタルトランスフォーメーション

社内改革 — 情報・人財

デジタルトランスフォーメーション

設計・施工のデータ、施設のリアルタイムデータ、新領域事業から収集できるデータを1つのプラットフォームに蓄積し、当社のそれぞれの事業領域の中で有効に活用していきます。当社の事業から得ることができるデータの他に、社外から得られるデータも連携させていきます。



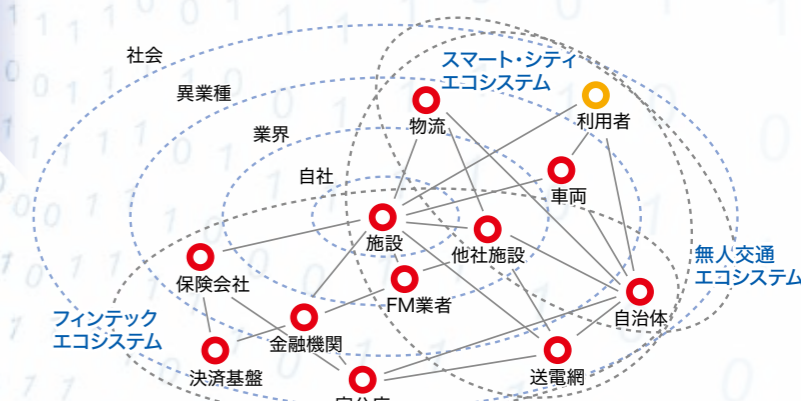
新領域への挑戦

当社が新領域事業へ挑戦することで得られるデータと、社外のエコシステムと繋がることで得られるデータをプラットフォームへ蓄積していきます。

新領域事業から得られるデータの広がり



社外エコシステムから得られるデータ

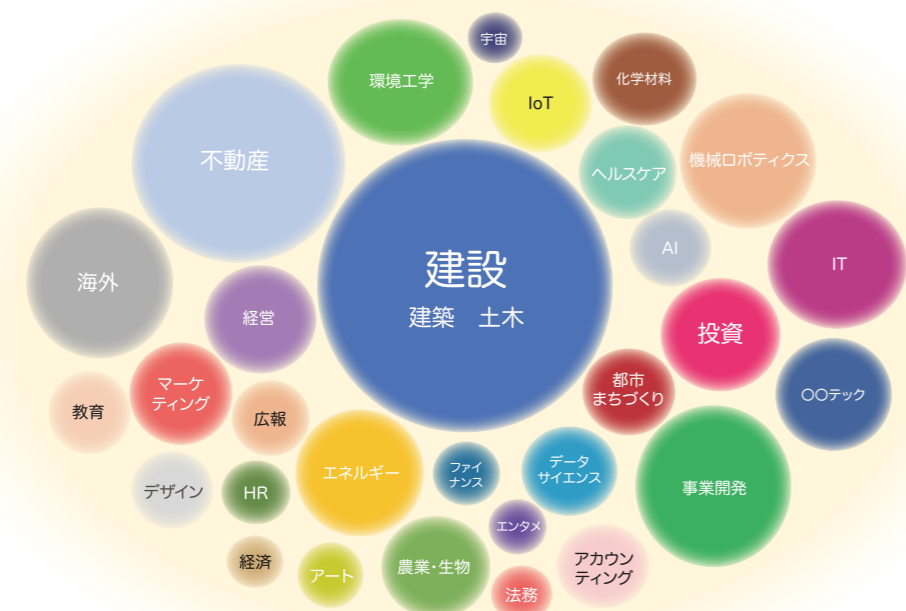


人財開発

当社の事業は大きく変革します。事業全体の流れを実現するために、個別最適に陥りがちとなっていた既存の価値観から脱却した人財開発を進めます。

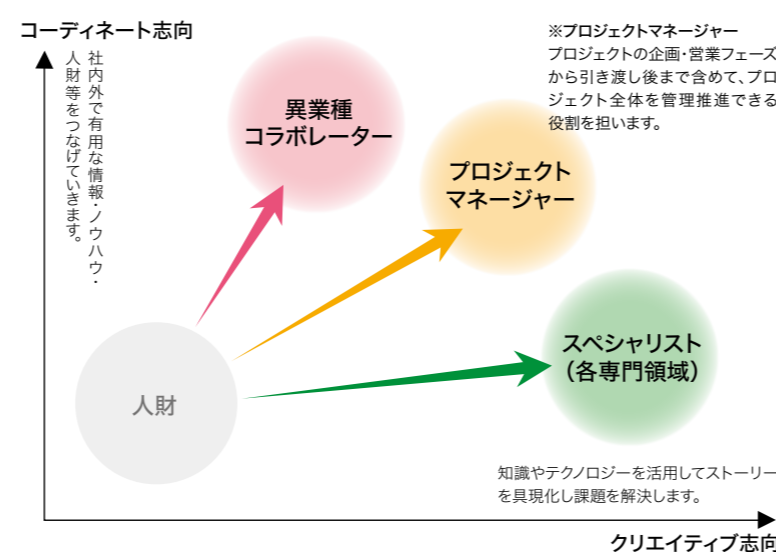
異なる専門性・バックグラウンドを持った人財(ダイバーシティ化)

新領域はもとより、建設領域においても求められる専門性は変化しています。多様な人財を獲得、育成することで事業の可能性を拡大していきます。



求める人財要件の再定義と新たな育成手法の確立

これからの当社の事業で必要となる人財要件を以下の3つに定義し、何れかを選んで目指せるキャリアパスを提示します。これに伴い画一的な社内研修を減らし、自ら学びを選択し活かせる仕組みに再構築します。

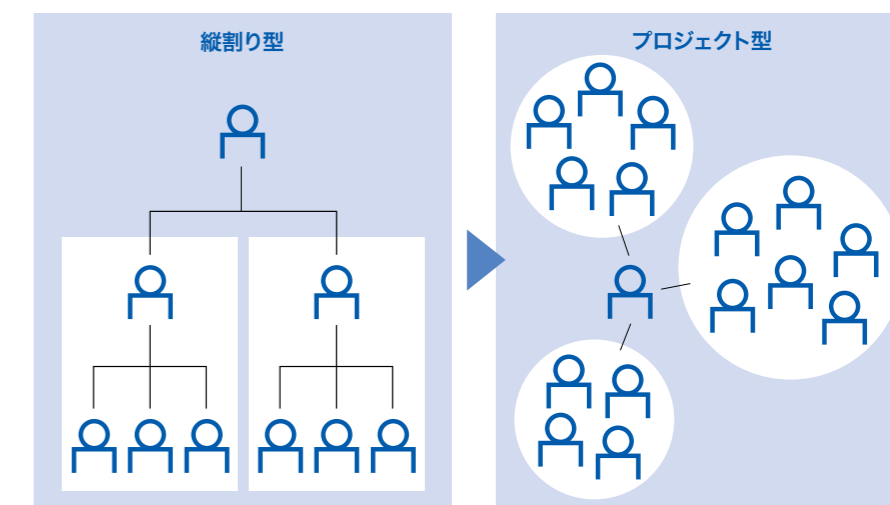


組織改革

従来の縦割り型組織を改め、プロジェクト毎に編成する「プロジェクト型組織」*を採用します。適材適所で効率的な人財活用が可能となる他、人財育成の点でも効果的です。

* プロジェクト単位でチームを形成する組織構成

縦割り型組織からプロジェクト型組織への変革イメージ



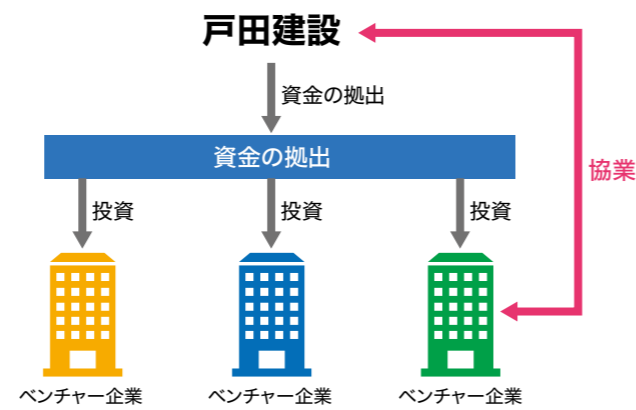
社内改革 ― イノベーションマネジメント・財務戦略

イノベーションマネジメント

「技術」と「知的財産」の創造による価値創造を目指すために、イノベーションマネジメントに取り組みます。イノベーション戦略を元に、組織、制度、手法等必要な仕組みを検討し、イノベーション・プロセスの設計を行います。採用する主な仕組みには以下のようなものがあります。

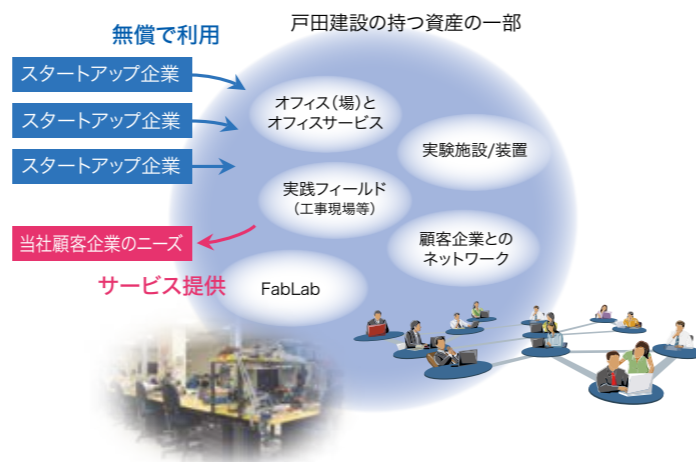
CVCファンドを活用したベンチャー企業との協業

コーポレートベンチャーキャピタル(以下CVC)を活用したベンチャー企業との連携を行います。CVCとは、従来のベンチャーキャピタルのように、キャピタルゲインを主目的とした投資ではなく、企業が自社の事業とシナジー効果を得られる可能性のある企業に投資を行うことを主目的とするものです。当社は有望なベンチャー企業を見つけ、育成することで、自社事業との連携による新たな事業創造につなげます。



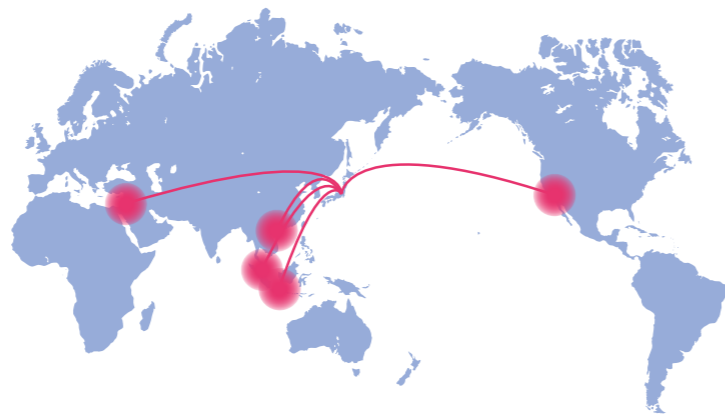
オープンイノベーションの場を創出

自社にない技術や知識、サービスを用いる目的で、スタートアップ企業とのオープンイノベーションに取り組みます。その一つとして、当社が持つ資産の一部をスタートアップ企業に提供するインキュベーションの仕組みを整備します。また、事業でシナジー効果が得られる場合はスタートアップ企業と協業し、当社として新たなサービス提供に繋がります。



海外イノベーション拠点にオフィスを設置し、技術や情報を獲得する

イノベーションスピードの速い海外の都市で、技術やサービス等の情報を収集します。その情報は、出資先候補の検討や、事業連携、あるいは革新的なサービスを受用するために使います。また、現地スタートアップ企業と協働し、現地での新規事業企画につなげます。

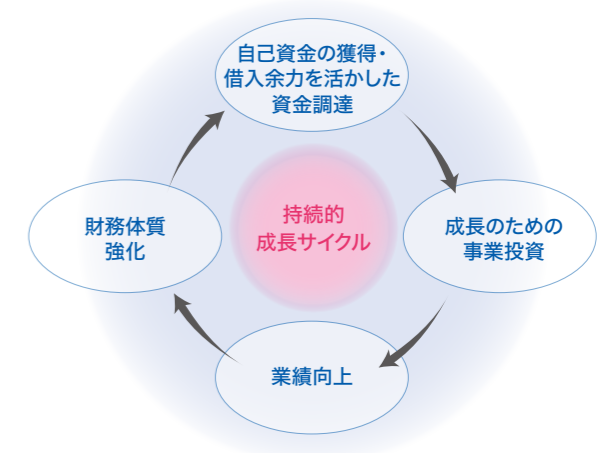


財務戦略

事業活動により得た自己資金と借入余力を活かした調達資金により、新規事業を中心とした未来への投資を積極的に行います。それは「建設を極める」と「新領域への挑戦」のシナジー効果を発揮することで事業拡大を加速させ、新たな人財の活躍の場の創出にも繋がるものと考えます。

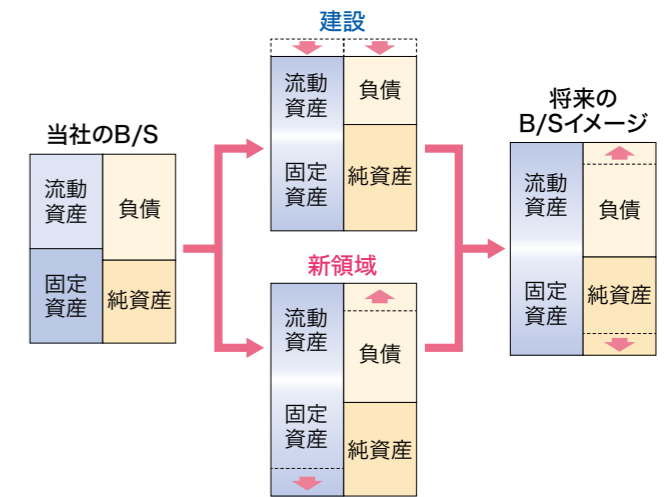
積極的な事業投資による持続的成長サイクル

当社の自己資本比率は43.7% (2017年度末日現在)と建設業界において高い水準となっており、それに裏付けられた借入余力、すなわち資金調達力は今後の事業展開において、大きな強みとなると考えています。これを最大限に活用し、建設事業の研究開発、新領域の事業開拓・拡大を進めることで「建設を極める」と「新領域への挑戦」を加速させ、持続的成長に繋がります。



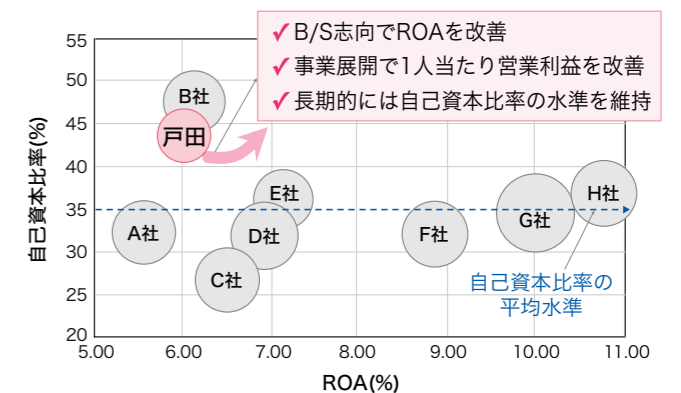
中長期的なB/Sの変動イメージ

建設では事業の遂行にあたり、必ずしも固定資産を必要としないことから、効率性を重視した小さいB/Sを志向し、保有資産の選別を行います。一方、新領域では強固な財務体質を活かした投資により、将来の収益源となる良質な資産を積み上げて、ポートフォリオを構築します。これらを組み合わせることで、継続的かつ安定的な利益計上を実現し、純資産の拡大を図ります。



財務体質と効率性・収益性の両立

保有資産の選別と新たな投資によるポートフォリオの構築で、限られた資産を有効活用し高い収益力を発揮する、筋肉質な財務体質を築き上げます。また、従来の領域にとらわれない事業展開は人財の活躍の場を創出し、事業拡大の可能性をさらに広げていきます。これらの成果はやがて、財務指標の向上・改善という目に見える形となって表れてきます。



※ 2017年度決算をもとに作成。円の大きさは1人当たり営業利益を示す。

建設も、その先も。

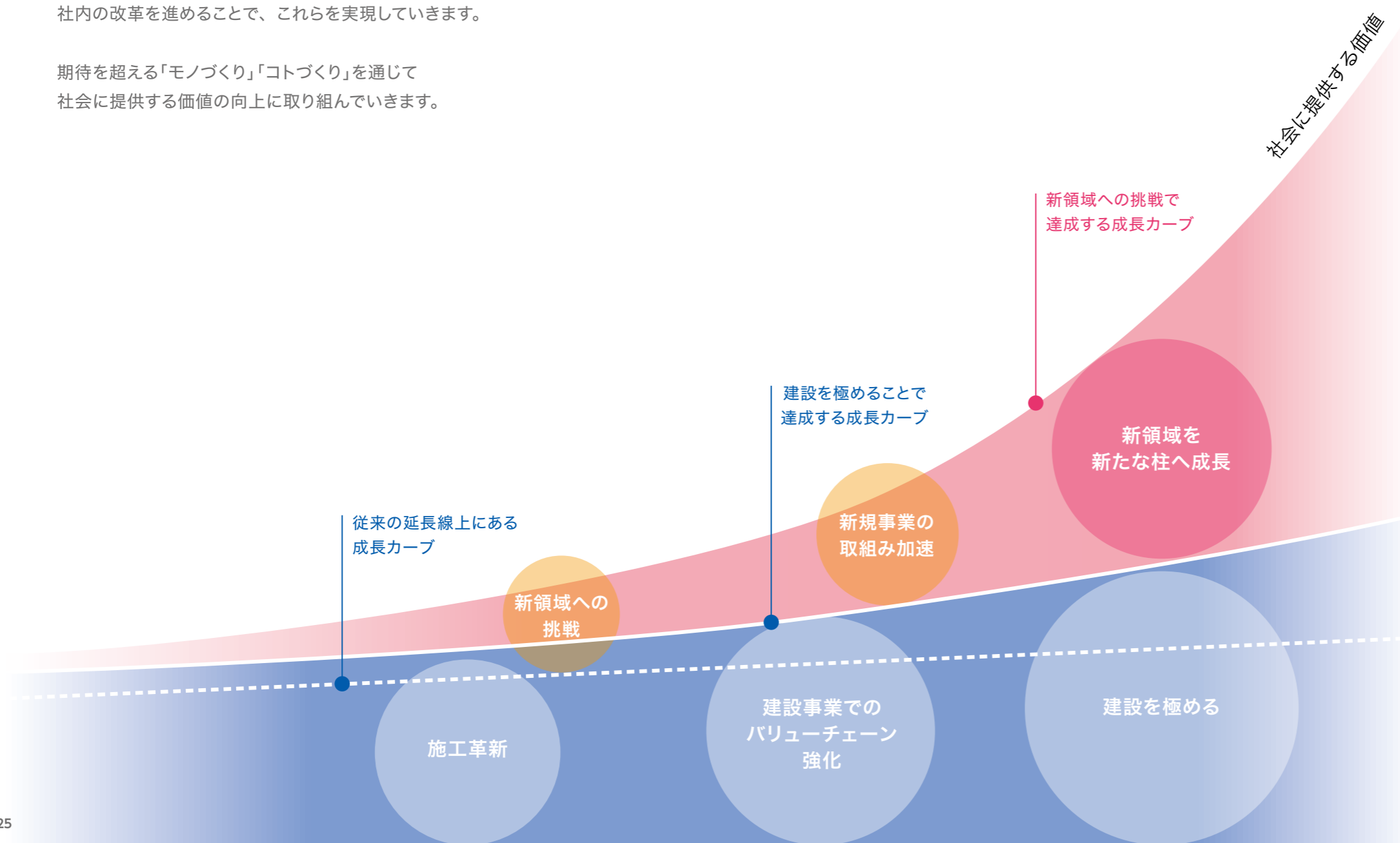
価値創造で更なる成長へ

持続的成長を遂げていくため
期待される以上の「価値」を創造し
社会に提供し続ける存在でありたいと
戸田建設は考えています。

戸田建設の強みを伸ばしていく「建設を極める」ことと
社会の変化に対応しながら「新領域への挑戦」を続けることで
シナジー効果を獲得しながら、さらなる成長を目指します。

戸田建設は、これまで以上にコラボレーションの輪を広げるとともに
社内の改革を進めることで、これらを実現していきます。

期待を超える「モノづくり」「コトづくり」を通じて
社会に提供する価値の向上に取り組んでいきます。



未来の歩き方

— 戸田建設が描く未来の姿 —

本冊子の活用方法は社外向けと社内向け
の二通りを想定しています。
社外向けには、新たな事業上の連携が
生まれることを誘発させる目的で活用され
ることを期待しています。
社内向けには、社員に対して戸田建設の
あらゆる可能性を提示することで、ボトム
アップで新たな取組みが加速されることを
意図しています。